

県大 jiman

滋賀県立大学広報誌
第9号009
July . 2011



県大生が語る
県大の魅力、未来像



語る

特集 巻頭企画 県大をアツク語る

県大生が語る県大の魅力、未来像

2

緊急企画 私たちにできること

東日本大震災の復興に向けて

5

学生企画 友達リレー

6

県大Report

Labo Report

県大jimanな研究室。今回は人間文化学部 濱崎・石川研究室です。

8

Class Report

あの授業はどんな授業？今回は人間看護学部の「生活行動看護論演習」です。

8

After School Report

今回は湖風夏祭、友好祭、運動会、京滋戦をレポート。

9

トピックス&インフォメーション

県大イベントカレンダー

10

「県大 jiman」について

琵琶湖と滋賀の自然をイメージカラーにし、胸を張って「自慢」する、明るく前向きに応援する気持ちをロゴにデザインしました。

滋賀県立大学

The University of Shiga Prefecture

特集



県大をアツく語る

滋賀県立大学には、2,700人を超える学生が集い、それぞれ夢と希望を叶えるため、楽しく、そして懸命に学生生活を送っています。

在学生から見た県大の魅力とは、どんなところにあるのか？

今回はアツい想いを持った在学生に集まってもらい、その魅力や未来像について“アツく”語ってもらいました。

県大の第二印象

〜開かれたキャンパス〜

品川 ■初めて大学を訪れたとき、校舎がとても印象的で、天気がいい日だったこともあって、すごくきれいだなと思いました。

近藤 ■僕は環境科学部に所属していますが、キャンパスの環境がすごくいい。カモが普通に学内を歩いていますから、環濠(お堀)があるのも特徴的です。

王 ■環境の勉強をするなら県大っていうイメージがありました。日本はアジア諸国と比べ、環境に対する取り組みが進んでいると思います。あとはキャンパスの雰囲気が好きですね。

大林 ■たしかに県大の独特の雰囲気ってあると思います。落ち着いた学生が多いって気がします。

馬場 ■どこでグループを組んでも似たような人が集まってくるような…。すごく居心地がいい。キャンパスもオシャレだし。



近藤 圭さん

環境科学部環境計画・政策学科4回生。学生自治会平成22・23年度執行委員長。環境マネジメント事務所(EMO)にも所属。昨年の京滋戦では、応援団長も務めた。滋賀県出身。

王 ■キャンパスのオープンな雰囲気がいいですね。人間も動物も誰でも自由に参加できる、そんなイメージです。

大林 ■ふつう大学には、校門があつて壁がありますよね。県大にはそれが無い。地域の

方々が自由にキャンパスを訪れて学生と交流できる、初代学長の日高先生は、そんな「開かれた大学」を目指されたと聞いています。



谷本 早彩さん

人間文化学部人間関係学科3回生。平成23年度体育会副会長。バドミントン部、体操・トランポリン部所属。昨年の湖風祭で、「人間お化け屋敷」の代表を務めた。県大jiman広報スタッフ。兵庫県出身。

谷本 ■大学近辺の方が犬の散歩をしていたり、子どもたちが遊んでいたりと、キャンパスが開かれているから、人間関係も開けているように感じて、自分が行動したら、どんな友達の輪が広がる感じがします。

活動との巡りあわせ

〜つながりの中で自分が変えていく〜

大林 ■高校時代に生徒会執行部に入っていて、イベントを企画したりしていました。大学でもやってみようかと思ったのが湖風祭実行委員会に入ったきっかけです。湖風祭のメンバーは100人以上います。たくさん仲間と一緒にイベントを創り上げる活動していると、いろいろな場面で人と人とのつながりを感じることが出来ます。もちろん地域と大学のつながりを感じることも多かったです。さっきも出ていたけど、県大は「開かれた大学」。そんな大学の学園祭だからこそ、もっと地域に密着して活動しなければならぬと思います。

馬場 ■私は近江楽座でのチームで活動しています。もともとは、彦根城近くの「七曲り」のNPOの方々に絵本を作る活動に誘われ

たのがきっかけです。活動するには、費用面などの課題がありますが、そんな時に近江楽座の先輩チームから、プロジェクトとして立ち上げてみたらとアドバイスをもらい、それが今に続いているのです。「開かれた大学」は、学生の中でも言えると思います。特に、先輩・後輩などの縦の関係が、すごくフラットでみんな「仲間」って感じですね。

王 ■ 私が所属している留学生会は、県大に在学する留学生で構成されています。主に彦根市にある国際交流団体と一緒に活動していて、さまざまな異文化交流のイベントに参加しています。他にも、新たに県大にやってくる留学生のサポートも大きな役目です。日本で生活するにあたって、文化の違いでわからないことや、慣れないことがたくさんあります。先輩学生と一緒に後輩のサポートするのは伝統になっていますね。これからは、学内での交流をもっと活発にしたいと思っています。



品川 裕太さん
環境科学部生物資源管理
学科3回生。平成22年度
文化会副会長、平成23年
度は会長に就任。ESS部と
「うんしょ(サークル)」に所
属している。山口県出身。

谷本 ■ 私はバドミントン部に所属していて、体育会の役員には推薦で選ばれました。県大のいいところは「のんびり、ゆっくり」したところが挙げられますが、体育会のクラブはそれだけでは、ダメなんです。対外試合では相手がいて、やっぱり伝統ある大学は、しっかりした組織でテキパキ動く。県大生には、そうした面が足りない。しっかりと活動をするためには厳しさも必要になってくると思います。私たちの学年で少しでも

変えていけるようにがんばっています。周りからは怖がられていますけど…。

近藤 ■ 私が所属する学生自治会は、僕が入学した時に設立されました。まだまだ新しい大学ですから、何か自分で創り上げていくことができそうだと思いい活動に参加しました。新しくできた組織なので、なかなかうまくいかないことが多くて苦労が多かったです。最近、先輩たちが新たな活動を模索しています。これからは変革の時だと思っています。



大林 秀人さん
工学部電子システム工学
学科4回生。昨年の第16回
湖風祭実行委員会委員長。
100人以上のメンバーをま
とめあげ学園祭を成功に
導いた。滋賀県出身。

品川 ■ 僕はESS部に所属していますが、文化会の役員募集の話聞いて、何か自分で変えていけるのではないかと思って、会長に立候補しました。文化会は、文化系サークルを統括する団体なのですが、まだまだ歴史が浅く、できてから5年くらいでしょうか。会計のことなど、仕組みを変えて、よりよくしていくことに取り組んでいます。物事を変えることは本当に難しく、エネルギーが必要なんです。まだまだ基盤をしっかりと作っていかねばいけません。

県大だからこそのできたこと

二人ひとりが輝ける場所

近藤 ■ 環境科学部のカリキュラムには、フィールドワークが組み込まれています。このフィールドワークでは、外に出て現場を感

じる機会がたくさん用意されていて実践的な勉強ができるのが特徴です。また、先生との距離がとて近しいのも魅力です。先生二人に対して学生が本当に少数です。勉強のことはもちろん、何でも相談できるし、お昼ごはんも一緒に食べることも多いですよ。

王 ■ 1回生から「人間探究学」で少人数教育が行われているのも魅力ですね。その他にも彦根は大阪などの大都市と比べると小さな街ですが、国際交流活動はとても盛んです。市で行われているさまざまな活動に関わることが出来ます。これも地域との距離が近いことの現れですね。

馬場 ■ 自分も二十歳を超えた「大人」なのですが、やっぱり大学生は「学生」じゃないです。大人だけとまだ社会人じゃない曖昧な部分があります。学生は学生だけで固まりがちで、社会からも「学生だから」と考えられている部分も多いかなと思います。近江楽座の活動をしていると、「大人」との接点がとても多いです。社会人の方々と一緒に活動することで得られるものはとても大きくて、そういう意味では「大人」との距離も近いと感じることが多いですね。



馬場 葵さん
人間文化学部地域文化学
科4回生。近江楽座プロ
ジェクト「七曲りでいっしょ
やったるか!!」平成22年度
代表。弓道部と「ス・ル・ク
ル」"Blessing"にも所属。滋賀
県出身。

大林 ■ 最近、就職活動していると面接では必ず「学生時代ががんばったこと」を聞かれます。そして、「一番の試練は何だったか?」と取り組んだか?と質問が続きます。色々なフィールドで活動していくと自然と答え

が見つかっていくと思っています。

近藤 ■ 県大って「自分が動かない」とって思わせる雰囲気がありますよね。だから湖風祭でも自分たちの手で創り上げるんだって気持ちで伝わってくる。自分たちでやろうと思えば必ず試練も達成感も生まれてくるって思います。伝統のない、まだまだ新しい大学だからこそ、自分たちにも変えていけるんだって空気があるのかも知れないですね。



王 嘉陽さん
環境科学部環境計画・政策
学科4回生。平成22年度
留学生会会長。6年前に
来日し、大阪で2年間、日
語を学んだ後、本学に入
学。中国江蘇省出身。

大林 ■ 県大の学生数ってそんなに多くないですよ。だからこそ、一人ひとりが輝ける場所が必ずあるって思っています。

王 ■ やろうと思えば何でもできる。そんな柔軟性のある大学だと感じます。

近藤 ■ やってみようと思わせてくれるきっかけはすごくいっぱいある。それに気付けたら、すごくいい学生生活につながっていくと思います。

馬場 ■ また、自分を見つめなおすことも大切ですね。最初は、自分には何もなかったって思っていたけど、こんなにたくさん得たものがあるって気づくことができました。

品川 ■ 先日僕は、各クラブの部長を集めたリーダー研修に参加してきました。初対面の学生も多かったのですが、研修を通して一緒に協力することの大切さを学びました。

そこでは、やる気のある人たちが集まるとすごい力になるんだということを実感しましたね。

谷本 ■ 私も参加したのですが、やっぱり団体を形成する一人ひとりがしっかりしていないとうまくいかないことが多いと感じています。自分から進んで行動しているからこそ、ぶち当たる壁があって、壁にぶちあたるからこそ成長できると思います。

未来の県大、後輩たちへ

「アツい気持ち」が原動力

馬場 ■ いつまでも、こういつつ悩みにぶち当たる学生がいる大学であってほしい。伝統ができていくことはいいことだと思っけれど、いつ

も、これでいいのかと立ち止まって考えながら進んでいくってほしい。小さくまとまるとほしくないですね。

谷本 ■ のんびりした雰囲気も残しつつ、やる時はやるぞっていうしっかりした部分もあって育っていくってほしいですね。メリハリのあ

品川 ■ 県大には自由な雰囲気があって、けっこう自由が与えられると思うけど、自由に置かれていてただで、まだまだ目いっぱい使えていないんじゃないかな。もっともっといろんなことにチャレンジしてほしい。キャンパスにも未開拓の場所がたくさんありますよ。

近藤 ■ 県大の特徴である「自分で行動する」という雰囲気を活かしながら、さらに個々の

秘めた力を引き出すことのできる教育に取り組んでほしいですね。大学には学生が活躍できるフィールドときっかけを提供し続けたいと僕は思います。

王 ■ これからもつと国際社会に対する解放感がほしいですね。来年には国際コミュニケーション学科ができますが、それをきっかけに留学生との交流がもっと進んでほしいと思います。国際交流がもっと盛んになってほしい。きっと日本人の学生にとってもそれはチャンスだと思っています。地球・世界もフィールドです。

大林 ■ 自分で何か創りあげたい、大学生活でしかできないことをやりたい、そんな気持ちで原動力だと僕は思います。大学側もサポートしてくれるし、何よりも学生に任せ

てくれる。そんなアツい気持ちをもった学生がたくさん来てくれたら、未来の県大は必ずもつと盛り上がりそうですよ。

「座談会を終えて」

今回、座談会の司会を務め、在学生の等身大の経験や思いを聞くなかで、改めて県大の様々な魅力を知ることができました。座談会も和気あいあいと進める事ができ、様々な場で活躍する人と話すことによって、それぞれにとつても刺激になったのではないのでしょうか。未来の後輩たちもこんなアツい気持ちを持ち続け、私たち先輩に「うらやましい！」と思わせるような、そんな充実した学生生活を送ってほしいと思います！

(学生広報スタッフ 人間文化学部

4 回生 澤田奈緒

職員による現地ボランティア参加

4月29日～5月3日に宮城県石巻市へ被災支援ボランティアに行ってきました。

最初の3日間は、石巻市にある魚加工工場で瓦礫とヘド口の清掃を行いました。瓦礫もヘド口も海水につかっていたので、とても重く大変な作業でした。瓦礫は種類ごとに分別して1箇所に集め置いてだけで、まだゴミ処理が進んでおらず捨てに行くこともできない状態です。そのため、当分はそのままとなり、衛生状態が気になります。



▲浸水家屋の壁面取り壊し作業をする玉井さん(左)

5月1日の午後からは、津波で2m以上浸水した民家での清掃作業を行いました。1階の床をはがして大量のヘド口を掻き出し、カビが生え海水でポロポロになった壁をはがしました。すさまじい粉塵が舞い上がってくるためゴーグルと粉塵対策用のマスクが必要です。

作業を終え、5月3日21:00に彦根に戻りました。職場の皆さんからは、「お疲れさま、どうだった?」と声をかけられ、非常に関心を持っていただいていたことが分かりました。もっと多くの学生にも関心を持ってもらい、1人でも多く人がボランティアに参加してもらえればと思います。

(事務局教務グループ 玉井大輔さん)

学生による現地ボランティア参加

5月30日～6月19日の3週間、福島県会津若松市にて、NGO団体「NICE」が主催する、避難施設の子どもたちと遊びを通した心のケアを行うボランティアに参加しました。父に「メディアではなく自分の目で感じるのが大切なのでは」と言われたことがきっかけです。

ボランティアには様々な年代や国籍などの人が集まり、体育館でバドミントンや追いかけてをしたり、ホテル内に設けられたキッズルームでまごごとやパズルをしたり、7か所の施設で活動しました。



▲子どもたちと一緒にの松尾さん(左から2番目)

楽しく遊んでいても、風雨の音を地震と思いきみ怯える子や、ご飯が食べられなくなってしまった子、歩いてきたのに「はいはい」に戻ってしまった子などがいて、震災の前後で色々変わってしまったのだと感じました。やはり、子どもたちには声量や動きの制限なく、大声を出し走り回り発散できる場が必要だと思えます。

今後、体育館やホテルで暮らす人々は仮設住宅に移ることになります。せっかくできた友達と別れ、再び新しい人間関係を作らなければならないことによる、精神的な負担も心配です。

実際に行ってみて、現地の人々の頑張り、ボランティアに行った私たちが方がパワーをもらいました。また3週間では全然足りないということを痛感しました。再び現地へ行き、支援を続けたいと思います。

(人間文化学部3回生 松尾夏希さん)

NICE

(日本国際ワークキャンプセンター/ Never-ending International work Camps Exchange)

<http://www.nice1.gr.jp/>

ボランティア活動の単位認定制度

本学では、学生の東日本大震災被災地でのボランティア活動に対して、単位を認定する制度を設けました。この制度では、夏季休暇等を利用して大震災の復興支援活動に30時間以上参加することで1単位(自由科目)が認められます。制度を利用するには事前申請のほか、現地での活動が確認できる書類や活動報告書の提出が必要となります。

7月11日(月)カフェテリアでは、学生自治会と大学生協が中心となって、ゴールデンウィーク等を利用してボランティアに参加した学生による活動報告会が行われ、ボランティアの参加を考る学生約50名が集まり情報交換を行いました。また、7月27日(水)には、学生支援センターによるボランティア活動事前説明会が実施され、履修のため手続きやボランティアに参加する際の心構えや注意事項について説明がありました。皆さんの活動が復興支援となることはもちろん、学生自身の成長につながることを期待しています。ボランティアについてのお問い合わせや相談は、学生支援センターまでお願いします。

私たちにできること

～東日本大震災の復興に向けて～

未曾有の大災害となった東日本大震災。私たちに何かできないか？できることはないか？そんな思いをもって行動した学生等の活動を、ほんの一部ですが紹介させていただきます。被害に遭われました皆様に心よりお見舞い、お悔みを申し上げますとともに、一日も早い復旧復興をお祈り申し上げます。

音楽会を中心とした募金活動

この活動を起こしたきっかけは、地震直後、被災地の状況を報道し続けるテレビを見て、何か行動しなければ、と感じたことです。まず、自分たちに何が出来るかを考え、周りの社会人の方々に相談する中で、ボランティアや物資支援などの案の中から、募金活動を行うことを決定しました。

地震直後は、春休み中ということもあり、サークルや部活などの団体を中心に募金を呼びかけることから始め、音楽会から文化会へ、そして体育会やOB・OGへも活動の輪は広がりました。最終的には20以上の団体の協力により、397,899円の募金が集まり、4月18日に日本赤十字社へ東日本大震災義援金として送ることができました。最初は、自分たちの力でどれほどの義援金を集めることができるのか、とても不安でした。しかし、活動していく中で温かい励ましの言葉を頂いたり、想像以上に多くの人たちと協力し合う事ができました。

被災地の復興にはまだまだ時間がかかります。私たちもこの活動を、たとえ細くても「長く」継続していくことを目指して、学内への募金箱設置を考えています。県大のみなさんも、ご協力よろしくをお願いします！

(環境科学部3回生 明石拓也さん 環境科学部4回生 橋本祐介さん
環境科学部4回生 佐神章太さん 環境科学研究科2年 木幡麟太郎さん)



番屋プロジェクト

滋賀県立大学の加子母木匠塾有志6人による震災復興支援プロジェクト「木興プロジェクト」は、5月3日から8日の間「番屋プロジェクト」に参加してきました。「番屋プロジェクト」とは、津波被災地である宮城県本吉郡南三陸町志津川で行われた産業復興プロジェクトです。

漁業の町である志津川において、「生活の復興と、産業の復興は同時であり、仮設住宅だけでなく、仮設産業施設も必要」との考えから、その第一歩として番屋を建設することになりました。番屋とは漁師達が休憩、寝泊りする産業の最前線拠点となる場所です。このプロジェクトは宮城大学の竹内研究室を中心となり、宮城大学、滋賀県立大学、東京理科大学、横浜国立大学などの学生や、志津川の木工さん、漁師の方達その他多くの方々の協力によって実施されました。また、番屋建設のための木材は、私たち木興プロジェクト(加子母木匠塾)が例年お世話になっている、岐阜県加子母村の中島工務店により提供されました。



▲完成し、旗や大漁旗などが飾られた番屋

今回参加してきたことで、被災地の方々の溢れんばかりの元気と心意気に触れ、応援しにいたはずの私たちが、逆に勇気付けられました。志津川の皆さん本当にありがとうございました。

(人間文化科学研究科1年 上西慎也さん)

木興プロジェクトブログ

http://blog.canpan.info/siga_kasimoku/archive/1

支援物資プロジェクト

地域生活論(前期開講:中塚圭子先生)では、「地域」は誰によって担われているのかについて事例を中心に考察する講義です。現在、この講義では、被災地支援を目的とした活動を計画しています。具体的には子どもと老人に支援対象を絞り、その立場に合った支援を目指し活動するグループや、飛び交う情報の中で、取り残された被災地に焦点を当て、新しい視点で情報を発信するグループなどに分かれて、多角的な支援を目指しています。

私達のグループでは、募金によって集めたお金で支援物資を購入し、メッセージを添えて被災地の方々へ届ける計画をしています。被災地のニーズは刻々と変化しており、支援にもスピードが求められています。そこで、募金が集まった時点で被災地に必要と考えられる物資を判断することで、ニーズに合った支援を実現させようと考えています。

この講義では、グループ同士が情報を共有しながら新たな支援に向けて動き始めています。県大の皆さん、是非ご協力をお願いします。

(人間文化学部3回生 平井菜々子さん)



花の絵葉書プロジェクト

このプロジェクトは、東北へのボランティアツアーに参加するに際して、周りの人たちの思いも一緒に現地に届けられないかと考え、絵葉書プロジェクトを提案したことがきっかけです。

4月28日の昼休みに大きな花の絵を下書きした模造紙を用意し、カフェテリア前で学生に呼びかけて、その花びらの中に小さな花を学生1人ひとりに描いてもらいました。「石巻市に届けよう」と呼びかけると、みんな誘い合って100人を超える県大生が参加し、最後には一輪の虹色の花となり素敵な絵葉書が完成しました。花を描くことで「何かしたいけど、何が出来るかわからない」というもどかしい気持ちが、少しでも前進するような場となれたなら嬉しく思います。

ゴールデンウィークに訪れた被災地は、全体が灰色に感じ、本当にここに人がいたのかと思うほどでした。絵葉書は、南三陸町にある志津川小学校に無事に届けることができました。復興支援に携わるNPO団体の方が強く言われていたことは「震災を忘れない」ということです。震災に関する報道やボランティアの数は、日を追うごとに減少していますが、長期間に亘る復興の間に忘れられていくことが被災者にとっては恐ろしいのです。無理にではなく、自分が出来る範囲で自分のペースで続けて、被災地への支援を続けていくことに意味があるのだと思います。

(人間文化学部4回生 馬場葵さん 環境科学部3回生 池山邑華さん)
活動紹介動画をご覧くださいませ

http://www.youtube.com/watch?feature=player_embedded&v=EZ9Tj3A07U8



▲完成した花の絵葉書

県大生協の震災支援

県大生協は、全国の大学生協とともに、被災された学生の学業を支援する取り組みを行っています。

3月から岩手生協呼びかけで行われた被災地の大学に辞書を送るプロジェクトは約80冊を、京都滋賀奈良生協全体では約1,000冊集まり、被災地の学生に送ることが出来ました。

また、被災により学業継続が困難になっている学生組合員のための募金活動を行っています。食堂の唐揚げカレーやショップのおにぎりなどの売り上げの一部からの義援金企画、昨年度完成したオリジナル日本酒「湖風」の売り上げの一部からの義援金、また店頭での募金活動などの取組みによって、5月末現在77,007円の義援金が集まりました。現在、全国の大学生協との協力により、父母・扶養者がお亡くなりになられた学生組合員、震災によって自宅・実家が全壊した学生組合員の方々に一人3万円を支給出来るよう取り組みを進めています。対象学生組合員は現在の想定では2,000人～3,000人程度であり、6,000万円程度が必要です。5月10日現在では、約2,700万円の義援金が集約されていますが、今後も同じ大学生の仲間のためにより多くの義援金を募っていく活動を続け、生協のネットワークを活かしながら被災地へのさまざまな支援を続けていきます。

(県立大学生協 理事 木下高志さん)

大学生協の被災復興支援情報はこちら

http://www.univcoop.or.jp/news/cate_list.php?a=cate_list&pageD=1&page_row=50&news_cate_id=53



『友達ルール』

学部や学科、学年の異なる友達をリレー形式でめぐり、さまざまな県大生活を紹介します！さあ一緒に県大生活をのぞいてみましょう！

インタビュー内容

- ①名前
- ②学部・学科・回生
- ③所属クラブ・サークル
- ④出身地
- ⑤住まい
- ⑥通学方法
- ⑦お気に入りアイテム
- ⑧あなたの県大エンジョイ法

⑦腕時計
「ゲーム旅行にて、初めて自分で買った腕時計です！」



- ①井上隆太さん
- ②工学部材料科学科3回生
- ③男子バスケットボール部
- ④兵庫
- ⑤彦根での一人暮らし(2回生1月～)
- ⑥自転車

⑧大学生生活には一人暮らしをオススメします。学生のうちに、身の回りのことをすべて自分自身でするという経験をしてあげば、社会に出て行くとき役立つんじゃないかなと思います。僕は最初、兵庫の尼崎から2時間半かけて通っていたんですけど、この頃の通学時間は本当にもったいなかったなと思います。もっと早くに一人暮らしを始めて、時間を有効に使うべきでした。それから、サークルよりも部活動に入ることをオススメします。やっぱり部活動だと独特の緊張感があって真剣に取り組めるので、仲間との絆もより一層深めやすいんじゃないかなと思います。

⑦カバン
「使い勝手がイイので高2のときから愛用しています！」



- ①室田洋平さん
- ②環境科学部環境政策・計画学科1回生
- ③男子バスケットボール部、ICEMEN
- ④大阪
- ⑤彦根での一人暮らし(1回生前期～)
- ⑥自転車

⑧自炊って意外と何とかなるものですよ！ただ、まかない付きのアルバイトなんかしていると、もっとやりくりしやすいから、アルバイト探しときには重視するべきかも。あと、部活動やサークルに入っていると、先輩におごってもらえたりするからありがたい♪友達も増えるし！僕は後期試験で合格して一人暮らしをすることになったので、新生活の準備が遅れ、注文した家具の到着がバラついてしまって不便でした。なので、一人暮らしを視野に入れているなら、準備は早めにしておくとも良いと思います！入学したらすぐに友達を作ろう！友好祭(P.9参照)は友達作りにはイキきっかけになりますよ。

⑦携帯音楽プレーヤー
「マイブームのUVERworldの曲を、通学中に聴ける♪」



- ①小川紘さん
- ②環境科学部生物資源管理学科4回生
- ③桃球(キンボール)
- ④京都
- ⑤実家
- ⑥電車+自転車

⑧県大はなんといっても、キャンパス内の自然がイイですね。実家が都会だから、なおさら空気が違って感じられる。県大生がみんなイイ人なのは、落ち着く環境で勉強できるおかげだと思います(笑)。大学でも野球を続けることも考えたんですけど、結局はバレーボールサークルやバドミントンサークルを経て、最終的にはキンボールの楽しさに気づいて一気にはまり、「桃球」に落ち着きました。最近では少しずつ増えてきているみたいですけど、キンボールができる環境がまだまだ少ないなか、県大は全国大会に行ける実力もあるし、すごく恵まれていると思います。

⑦定期入れ
「ジャッキー大好き！4年間使ってみせます☆」



- ①山田恵梨華さん
- ②人間文化学部生活栄養学科1回生
- ③馬とみんとんサークル(バドミントンサークル)、桃球(キンボールサークル)
- ④滋賀
- ⑤実家
- ⑥電車+自転車

⑧履修登録に関しては、先輩に聞くのが安心です。私の場合は、先輩の過去の時間割を参考にさせていただきました♪私は、ピアノシモのココアプリンと、県大のキャンパスそのものがとても気に入っています。ココアプリンにはプラス20円でアイスクリームとホイップがつけられるので、美味しさもお得度も素晴らしいです！あと、晴れた日のセンター広場とかも大好きですね。ドッジボールとか、キャッチボールがしたくなります。日当たり良好で、お弁当を食べるにも最高の場所！...なのですが、黒のタイツとか穿いていると、ものすごく暑いので気を付けてください(笑)。

⑦財布
「財布は絶対サマソ☆3代目♪」



- ①小畑知香さん
- ②工学部機械システム工学1回生
- ③フレックスタイム(ボウリング・スポーツ全般サークル)
- ④滋賀
- ⑤実家
- ⑥電車+バス

⑧友好祭や新歓では他学部他学科の友達をつくれるので、本気で入部を考えているところ以外にも、気軽に行ってみるといいと思います。実際、工学部には女の子が少ないので、私にとっては同性の友達ができる良い機会でした♪あと、学食でオススメのメニューは安くておいしい「いもち」です！お箸で切れないくらいにすごくモチモチしていて、お気に入りです☆

⑦ペンダント
「色合いが気に入ってます！」



- ①北山顕信さん
- ②人間文化学部地域文化学科2回生
- ③バドミントン部、バレーサ(バレーボールサークル)
- ④香川
- ⑤彦根での一人暮らし(1回生前期～)
- ⑥自転車

⑧彦根城の桜は春になるとすごく綺麗ですよ！今年は彼女との予定が合わず、お花見デートができなかったのが、来年こそは行きたいですね。学内のおススメといえばピアノシモ(学内喫茶)のカツサンドです！300円であのボリューム、あの美味しさはなかなか。ぜひ一度、食べてみてください。

⑦なっちゃんオレンジ
「最近ハマってます♪」



- ①服部友美さん
- ②人間文化学部地域文化学科2回生
- ③女子バレーボール部
- ④岐阜
- ⑤実家
- ⑥電車+自転車

⑧部活動やサークルに入ることをおススメします！私は途中入部だったのですが、以前より学校が楽しく、毎日が充実しています。アルバイトに関しては、シフトを詰めすぎると大変なので、忙しすぎない程度にするといいと思います。ちなみに私はアルバイトで得た収入で友達と食事に行ったり、買い物に行ったりします。

授業つながり

部活動つながり

友好祭

つながり

サークルつながり

サークルつながり

新入生歓迎会つながり

学科つながり

『投稿コーナー』

投稿テーマ:『県大生の夏』

- ①あなたの「たわし」
- ②「ハンカチ」を数えてください！
- ③「夏でもたこやき!!!」(ハンビ)
- ④吹奏楽部にいるおかげで、7月はコンクールにむけての練習三昧です。でも7月末のコンクールが終わったら、がんばって時間作って旅行するようにしてます！あと、湖からの湿った風も一つの風物詩と思えるようになってきましたよ。(海月)
- ⑤「夏はエゴにうちわでエゴ(カメパン)」
- ⑥「汗ふきシートはかせませんっ！女子ですから」(ユミ)
- ⑦「Krew(Street Dance Circle)の秋湖風に向けての練習!!暑い中みんなでがんばっています!!!」(もっちゃん)
- ⑧「びわこに行く」(匿名)
- ⑨「食堂のソフトクリーム」(しずまれ)
- ⑩「毎日寝る前はカキ氷食べて体温下げたらベッドへ」(eco万歳!!)(オカモト)
- ⑪「毎夏、県大センター広場で行われる「荒神山ロックフェス」が熱いよ！学生主体で作るフェスで、プロからアマチュアまで音楽を愛するバンドが2日間にわたって演奏します。今年も既にスタッフとして動き出しています!!楽しいよ!!」(ちやき)
- ⑫「スーパーの半端セルでアイスを買い溜めする!!冷凍庫がアイスで埋まる幸せ」(ゆかり)
- ⑬「たまに環濠に飛び込む人おるけど奥そうやし、絶対にまねしたくないと思う」(綿棒)

『伝言コーナー』

- ①「面と向かっては伝えられない言葉や思いを、ページをのせて」
- ②「伝言マシン」
- ③「食堂のパートさん方へ」
- ④「制服変わっておしゃれかわいいですっ♡」(とみーとリ)
- ⑤「クラブ幹部及び一同様へ」
- ⑥「今まで、色々迷惑をかけたすみません。私は今、少しでも変わろうと思がっているつもりです。どうかこのいない海月を見捨てず今年はいっしょに頑張ってください。お願いします」(水の月より)
- ⑦「Krewのみんなへ」
- ⑧「みんなともっと踊りたい!!がんばって湖風祭いもん作るーな!!」(ハンビ)
- ⑨「お母さんへ」
- ⑩「いつも、おいしいご飯を作ってくれてありがとう」(ななみより)
- ⑪「Buddyちゃんへ」
- ⑫「朝起きにきてくれてありがとう♡いつも癒されてるよー」(Buddyちゃん大好き)(ゆかりより)
- ⑬「両親祖父母へ」
- ⑭「毎日しあわせだよ、本当にありがとう」(さくらより)

Labo Report

人間文化学部地域文化学科 濱崎・石川研究室

“歴史的建造物・まち並み・景観の研究”

濱崎・石川研究室は文化的景観やまち並み保存の研究を行っています。文化的景観とは、地域における人々の生活や生業、風土により形成されたその地域独特の景色のことで、地域の生活や文化を理解する上で欠くことのできないものです。滋賀県の身近な例では、近江八幡市の水郷や、高島市の海津・西浜・知内の水辺景観などがあります。濱崎・石川研究室では各自治体と連携し、文化的景観の運営方法や改善点についての研究を進めています。まち並み保存の研究では、近江八幡市や彦根市で古いまち並みの調査を行い、まち並み保存のためのまちづくりのあり方を模索しています。



▲調査の様子



研究室DATA

教員：濱崎一志教授、石川慎治助教
 研究室：D1-308（濱崎研究室）、D2-302（石川研究室）、
 D6-105（保存修景室）
 ゼミ生：4回生：16名、M1：1名、M2：1名、
 D3：1名

また、海外においては、シリアの都市遺跡パルミラにおけるローマ時代の墓の研究も行っていきます。ローマ時代、シルクロードにより東西の交易を結ぶ重要な都市として発展したパルミラには塔墓や地下墓、家屋墓など様々な墓があります。濱崎・石川研究室ではこれら地下墓や家屋墓の発掘調査に参加し、CADや3DStudioなどのパソコンソフトを用いて復原作業を行いました。昨年の夏、調査に行かれた濱崎先生と石川先生は、真っ黒に日焼けして帰国されました。

現在、ゼミ生は総勢19名です。個性的な学生が多く、研究の合間に野菜や花を育てているゼミ生もいます。これからの季節に実ることが楽しみな夏野菜も元気に育っています。濱崎・石川研究室の家庭菜園に見学に行ってみると、運が良ければ野菜をごちそうしてもらえるかもしれませんよ！

Class Report

“基本技術の修得と実践力を養う”

「生活行動看護論演習Ⅰ・Ⅱ」

人間看護学部専門科目

担当教員：森敏教授、伊丹君和教授、米田照子助教

滋賀県立大学の人間看護学部の学部名は、「人が人として生き、その人らしい生き方を支える看護を探究していく」というポリシーにもとづいています。

1回生の授業では、まず、患者の療養生活の環境調整——たとえば、温度・湿度・換気・採光・臭気・騒音・プライバシーの保護など——の大切さについて学んだうえで、それを整えるための援助技術を、実践を通して身につけます。また、健康の維持増進、人間の基本的ニーズの充足、病気の回復へと向かうための日常生活行動を援助する技術として、清拭、洗髪、車椅子移乗・移送、シーツ交換、寝衣交換などについても学び、技術チェックに合格することで、自らの技術を確認なものとし、技術チェックはなかなかの難関ですが、友人と励ましあい、朝から晩まで練習しますので、合格



▲ベッドの上で足浴を行う演習

したときの喜びもひとしおです。

2回生の授業では、健康状態の把握や、看護援助の方法の評価を行うために必要なヘルスアセスメントについて学びます。呼吸数・脈拍・血圧などのバイタルサインの測定技術についても技術チェックがありますので、空き時間を見つけては、正確な数値が測定できるように友人同士で練習します。

生活行動看護論演習で学んだことは、病院実習時に非常に役立つので、努力の分だけ自信を持つことができるでしょう。

友好祭

4月4日(月)の入学式前日に「友好祭」が行われました。友好祭とは、新入生同士が入学の前に友達をつくるイベントで、今年は新入生約250名が参加し、バレーボール大会と立食パーティーで盛り上がりました。

バレーボールを通してチームの仲間と仲良くなり、その後の立食パーティーでは再びチームを分け、新たな仲間作りをスタートさせました。

このイベントをきっかけに、新入生は学部学科の枠を超えて親睦を深め合い、大学生としての第一歩を踏み出しました。



運動会

5月7日(土)滋賀県立大学体育館にて、体育会主催の運動会が開催されました。(キャッチフレーズ:「広がれ絆の輪」、競技種目:ドッジボール、6人1チーム制、優勝賞品:近江牛2万円分)

今年の運動会では、19ものチームが優勝賞品獲得を目指し、熱い戦いを繰り広げました。チームのメンバー構成は、同じ部活動やサークル、学科に所属する学生同士であったり、学生時代の思い出作りにと集まった4回生同士であったりとさまざまでした。女子メンバーには有利点を設けていたので、男女混合チームや女子のみで構成されたチームの参加もあり、学生みんなで楽しめる運動会となりました。

一つの目標に向かって一致団結して闘うことで仲間との絆がより深まり、対戦相手と讃え合うことでまた新たな絆が生まれ、絆の輪が徐々に広がっていく。そんなスポーツの良さの一つを味わえる運動会になったのではないのでしょうか。

運動会は来年も開催予定です。一緒に、熱い汗を流してみませんか?



第14回 うみかぜなつまつり 湖風夏祭 ～Have A Nice Day～

6月18日(土)、滋賀県立大学キャンパスにて今年で14回目となる「湖風夏祭」が開催されました。当日はあいにくの雨でしたが、学生だけでなくたくさんの地域の方が訪れ、会場にはぎわいました。

ステージでのライブや選手権大会をはじめ、学生による模擬店や活動の成果発表、地域の方によるフリーマーケットが出店されるなど、さまざまなイベントで盛り上がりました。また、今回は彦根、滋賀で活躍するゆるきゃらRが登場。かわいらしい姿を振りまき、子どもたちにも学生にも大人気でした。

湖風夏祭が推進しているエコプロジェクトは今年も健在で、模擬店でのMy!はしの持参やDRP(お皿の使い回し制度)、ゴミ分別もだんだんと浸透してきたのではないのでしょうか。

11月11日(金)～13日(日)には湖風祭を予定しています。規模も楽しみも湖風夏祭よりさらに大きなものとなっているので、ぜひお越しください!



第14回 京滋戦

7月2日(土)滋賀県立大学において、体育会伝統の定期交流戦「第14回京滋戦(京滋公立大学総合競技大会)」を開催しました。

京滋戦は、スポーツを通して滋賀県立大学と京都府立大学の親睦を深め、日頃の心身鍛練の成果を一堂に会して試し、両校のスポーツのレベルアップを図ることを目的に開催しています。会場は毎年両校の持ち回りとなっており、今年は滋賀県立大学での開催となりました。

天気にも恵まれたこともあり、キャッチフレーズ『熱闘!京滋戦』にふさわしい熱戦が繰り広げられ、試合結果は大敗を喫した昨年の雪辱を果たす形で滋賀県立大学の総合優勝となりました。どの試合も非常に実力の拮抗した手に汗握る内容でした。

来年度、京都府立大学で開催される第15回京滋戦での勝利も期待しています。

試合結果		滋賀県立大学	京都府立大学
バスケットボール	男子	69	88 ●
	女子	60	79 ●
バレーボール	男子	●	2 - 1
	女子	●	2 - 1
バドミントン	男子	●	6 - 3
	女子	●	6 - 1
硬式テニス	男子	3	6 ●
	女子	2	3 ●
硬式野球		●	4 - 3
サッカー		0	0
フットサル		●	13 - 1
剣道	男子・女子	5	6 ●
卓球	男子	3	4 ●
軟式テニス	男子	●	4 - 0
弓道(オープン戦)		63	54

- ★男子優勝 **滋賀県立大学** (滋賀 11 - 京都 9)
- ★女子優勝 **京都府立大学** (滋賀 4 - 京都 6)
- ★総合優勝 **滋賀県立大学** (滋賀 15 - 京都 13)



Topics & Information

TOPICS

01

平成24年4月に新しい学科・専攻が誕生します

■人間文化学部国際コミュニケーション学科が誕生

本学では複雑化・多様化する社会において国内外を問わず広く活躍することのできる国際的視野と語学力を兼ね備えた人材の育成を目的として、人間文化学部「国際コミュニケーション学科」を開設します。他学部・他学科との連携によって、大学全体の国際化に向けてさらに一歩踏み出します。

異文化を理解・体験することにより国際社会を理解し、英語はもちろんのこと、第2外国語を加えた外国語によるコミュニケーション能力の向上を目指します。

■大学院工学研究科に電子システム工学専攻博士前期課程が誕生

電気・電子・情報システムの視点から、幅広い基礎知識を含む高度な専門知識を習得するとともに、顕在化している多岐にわたる環境問題が解決でき、ひいては持続可能な開発につながる機能的電子システムおよびその関連システム・要素が創成できる有為の人材育成を目指し、大学院工学研究科に電子システム工学専攻博士前期課程を開設します。

専攻には、電子工学部門、電子応用部門および情報部門を置き、有機的に互いに連携しながら、社会経済において指導的役割を果たせるような人が育つ教育研究を実践していきます。

TOPICS

02

彦根市と連携・協力に関する協定を締結しました

本学は、彦根市における新たな「彦根市総合計画」の策定を機に、これまでの人的・知的資源の交流・活用などの取組みをさらに発展・充実させ、大学と市が一体となって学園都市彦根の発展と地域における人材育成を推進していくため、3月24日(木)に彦根市役所において、相互の連携・協力に関する協定を締結しました。

これまで、県内自治体との連携・協力については県立大学の責務として積極的に推進してきましたが、今後は、連携協定を締結することにより、相互の連携・協力関係および体制をより明確にすることもできます。



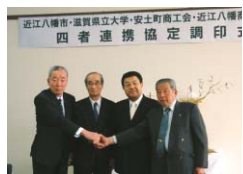
TOPICS

03

近江八幡市、近江八幡商工会議所、安土町商工会と連携協定を締結しました

本学は、近江八幡市、近江八幡商工会議所および安土町商工会と近江八幡市における文化、自然、歴史を活かしたまちづくり等を進めるため、4月15日(金)に近江八幡商工会議所において四者連携協定を締結しました。

今後、文化振興、産業振興、地域活性化、人材育成、省エネ・低炭素型のくらしの5項目を柱として、四者が連携して調査研究活動を含めた事業等の実施を予定しています。



TOPICS

04

学生表彰

本学は、学術研究活動、課外活動等で優れた評価や成績を残した学生を表彰する「学生表彰」制度を設けています。平成22年度は、個人5名と課外活動1団体が選ばれ、3月21日(月)に表彰式を行いました。

◆学生表彰受賞者

【個人】

大学院工学研究科

材料科学専攻博士後期課程3年

加藤 嘉成さん

大学院工学研究科機械システム工学専攻博士前期課程2年

田中 一成さん

大学院人間文化学研究科生活文化学専攻博士前期課程2年

林 宏美さん

環境科学部環境計画学科環境社会計画専攻4回生

河原田陽介さん

環境科学部環境計画学科環境社会計画専攻4回生

中村 友子さん

【団体】 硬式野球部(25名)



TOPICS

05

優秀職員表彰

本学では、特に顕著な業績のあった職員に対する優秀職員表彰制度を設けています。

各学部等から推薦を受け学内に審議した結果、4名の教職員について優秀職員として表彰することを決定し、3月17日(木)に表彰式を行いました。

◆優秀職員表彰受賞者

ヒモスベルゴ・ホアン・ラン 准教授

(環境科学部 環境建築デザイン学科)

奥 健夫 教授

(工学部 材料科学科)

福渡 努 准教授

(人間文化学部 生活栄養学科)

吉田 猛 副主幹

(事務局経営戦略グループ)

※平成22年度所属職・氏名



TOPICS 06

県大オリジナル日本酒を発売しました

本学の学生プロジェクトである「県大日本酒プロジェクト」が喜多酒造(滋賀県東近江市)の協力を得て、3月にオリジナル日本酒「湖風(こぶち)」を造りました。

原料米には、滋賀県立大学内の圃場(実験水田)で収穫された日本晴を使用し、100%の純米大吟醸となっています。

プロジェクトでは酒造体験だけでなく、ラベルなどのデザインを中心とした商品開発から、小売店への営業など全面的に「モノづくり」に関わりました。

県立大学生協および彦根市内の酒販店で発売しています。

〔容量・720ml〕
〔販売価格：1,575円(税込)〕



受賞・表彰

大学院工学研究科

博士後期課程3年 加藤 嘉成さん

日本セラミックス協会「Journal of the Ceramic Society of Japan」

2010年優秀論文賞

大学院工学研究科

博士前期課程2年 田中 一成さん

日本機械学会関西支部技術情報交流会

優秀ポスター講演賞

大学院人間文化科学研究科

博士前期課程1年 高杉 昭吾さん

生地とわたで作られた新しい床座や椅子の道具「モノデザイン・アイデアコンペ」

アイデアデザイン部門優秀賞

ウィンドサーフィン部

環境科学部1回生 小笹 敬造さん

関西地区新人戦(個人の部) 6位入賞

工学部1回生 鈴木 郁也さん

環境科学部1回生 小笹 敬造さん

工学部1回生 中村 有希さん

関西地区新人戦(団体の部) 優勝

環境科学部1回生 小笹 敬造さん

全日本学生ホードセーリング選手権新入戦(メンズの部) 6位入賞

環境科学部4回生 河原田陽介さん

環境科学部3回生 鈴木 貴之さん

人間文化科学部3回生 宮本 涼太さん

工学部2回生 永野 祐大さん

環境科学部2回生 羽根洵哉さん

全日本学生ホードセーリング選手権大学対抗戦 3位入賞

人間文化科学部3回生 宮本 涼太さん

JUBF National Team 2011 選考会 兼 ユニバーシアード2011 日本代表選考会 6位入賞 National Teamメンバー選出

人事異動

着任

松本 健一 環境科学部 助教

永井 拓生 環境科学部 助教

伊田 翔平 工学部 助教

和泉 遊以 工学部 助教

中井 均 人間文化学部 准教授

篠原 岳司 人間文化学部 准教授

宮尾 学 人間文化学部 助教

大橋 順子 人間看護学部 助手

鵜飼 修 全学共通教育推進機構企画推進部 准教授

所属替え

図書情報グループ 統括 橋本 俊明

地域貢献研究推進グループ 主査 小森 聡

総務グループ 主任主事 高谷 美穂 (教務グループより)

経営戦略グループ 主任主事 茶谷 忠宏 (学生就職支援グループより)

教務グループ 副主任主事 矢野 圭昭 (経営戦略グループより)

地域貢献研究推進グループ 主事 竹村 香織 (財務グループより)

環境科学部 助教 小林 正実

工学部 講師 森脇 克巳

人間文化学部 教授 武邑 尚彦

人間文化学部 教授 林 博通

人間文化学部 教授 土屋 敦夫

人間文化学部 教授 野部 博子

人間看護学部 教授 藤田きみ糸

人間看護学部 教授 沖野 良枝

国際教育センター 助 教 西川みゆき

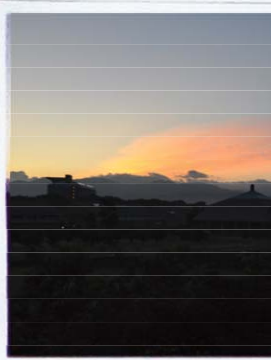
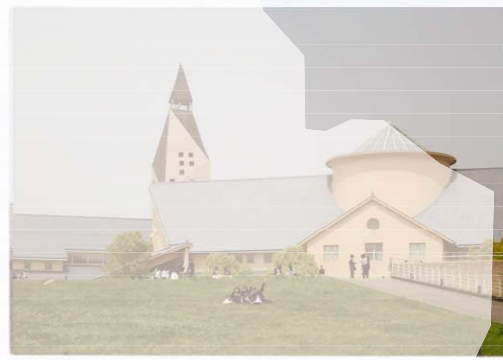
図書情報グループ 教授 寺島 穂子

(兼経営戦略グループ) 主任主事 三浦 寛二

退職



8月	上旬	インターンシップ(～9月下旬)
	3	水 第2回琵琶湖塾 講師：竹中ナミ氏(社会福祉法人ブロップ・ステーション理事長)
	6	土 夏季休業開始
	6・7	土・日 オープンキャンパス 2011
	6～26	土～金 レイクスベリオル州立大学(LSSU) 夏期プログラム
	8～10	月～水 集中講義期間
	9	火 大学院入学試験(工学研究科博士後期課程)
	10	水 3年次編入学試験(工学部)
	10	水 大学院入学試験(工学研究科博士前期課程)
	20・21	土・日 荒神山ロックフェス 2011
	25	木 大学院入学試験(人間文化学研究所生活化学専攻博士前期課程)



9月	3	土 3年次編入学試験(人間看護学部)
	7	水 3年次編入学試験(環境科学部)
	14	水 第3回琵琶湖塾 講師：石神由美子氏(鹿児島テレビ「ナマ・イキ VOICE」元チーフディレクター)
	14～28	水～水 集中講義期間
	27・28	土・日 大学院入学試験(環境科学研究科環境計画専攻博士前期課程)
	27・28	土・日 大学院入学試験(環境科学研究科環境動態学専攻博士前期課程)
	29	月 大学院入学試験(環境科学研究科環境計画専攻博士後期課程)
	30	金 夏季休業終了



10月	3	月 後期授業開始、後期公開講義開始
	12	水 第4回琵琶湖塾 講師：川口順子氏(参議院議員)
	12	木 第8回就職セミナー(就職活動直前対策セミナー)
	13・14	木・金 大学院入学試験(人間文化学研究所地域化学専攻博士前期課程)
	22	土 第9回就職セミナー(一般常識試験対策セミナー)
	29	土 第10回就職セミナー(SPI試験対策セミナー)
	11月	2 水 第11回就職セミナー(就職活動体験談発表会)
	8	火 大学院入学試験(人間看護学研究科修士課程)
	9	水 第5回琵琶湖塾(公開琵琶湖塾) 講師：朝原宣治氏(元陸上競技選手・北京オリンピックメダリスト)
	10	木 「湖風祭」前日準備(全学休講)
	11～13	金～日 大学祭「湖風祭」
	12・13	土・日 入試相談会
	14	月 「湖風祭」後片付け(全学休講)
	19	土 第12回就職セミナー(エントリーシート対策セミナー)
	27	日 特別選抜試験
	30	水 第13回就職セミナー(グループディスカッションセミナー)



12月	7	水 第14回就職セミナー(業界研究・企業研究会)
	17	土 第15回就職セミナー(面接対策セミナー)
	21	水 第6回琵琶湖塾 講師：野田聖子氏(衆議院議員)
	28	水 冬期休業開始
1月	3	火 冬期休業終了
	4～7	水～土 集中講義期間
	9～16	月～月 企業研究会(学内企業説明会)
	14・15	土・日 大学入試センター試験
	22	日 第7回琵琶湖塾 講師：玄有宗久氏(小説家、僧侶)

県大イベントカレンダー

滋賀県立大学広報誌「県大jiman」は県大が持つキラリと光る「jiman」などを紹介する広報誌です。今回の特集は、在学生の思いを届けることをテーマにしました。県大には現在2,700名を越える学生が在学しており、一生懸命に青春時代を駆け抜けています。そんな学生たちのキラリ光る瞬間を感じ取っていただけたでしょうか。「県大jiman」をよりよい広報誌に育てていくために、今後みなさんの協力をいただきたいと思いますので、ご意見・ご感想をお寄せください。

学生広報スタッフ大募集！
広報誌作成グループでは、県大jimanの作成に参加してくれる学生を募集しています。私達と一緒に、県大の素敵な「jiman」をしてみませんか。デザインの専門知識がなくても大丈夫です。興味のある方は、気軽にお問い合わせください。

広報スタッフ
みんなアツい！残りの県大生活充実させよ★ (人間文化学部4回生 澤田 奈緒) 記事を書くのってむずかし〜(〇_〇) (環境科学部3回生 井上 はづき)
今回の県大jimanは読みごたえたっぷり！ (人間文化学部4回生 中田 瑞季) 県大の魅力を再発見！楽しかったです。 (人間文化学部3回生 平井 菜々子)
湖風祭ファッションショー一見に来てね♪ (人間文化学部3回生 筒井 明日実) 何かに挑戦する姿には心を打たれます。 (工学部 河崎 澄)
表紙写真は写真部提供です。次回もがんばります。 (人間文化学部3回生 中西 未紅) ついに今回は10号、何か記念企画を！ (人間文化学部 佐々木 一葵)
またひとつ、良い経験を得られました(´▽`)☆ (人間文化学部3回生 谷本 早彩) 大学の主役は学生です！がんばれ県大生！(事務局 茶谷 忠宏)
初仕事でした。さあやさん色々ありがとう！ (人間文化学部3回生 中林 由佳)

滋賀県立大学広報誌「県大jiman」第9号
発行/滋賀県立大学広報委員会
編集/広報誌作成グループ
〒522-8533 滋賀県彦根市八坂町2500
Tel.0749-28-8200 Fax.0749-28-8470
URL : www.usp.ac.jp/
E-mail : webmaster@usp.ac.jp
発行日/2011年7月29日

今号の表紙のデザインは県立大学写真部の協力により制作しました。
写真部ホームページ
<http://photosp.web.fc2.com/>

